





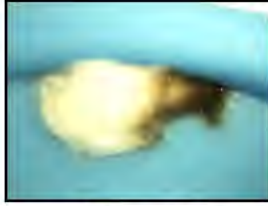


平成23年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成23年10月から平成24年3月の種類同定検査件数は、20件でした。内訳は昆虫類13件(コウチュウ目4件、ハチ目3件、ハエ目・カメムシ目各2件、チョウ目・アザミウマ目各1件)、その他の節足動物(クモ類)1件、その他6件でした。今回は、その中より主な事例を抜粋して紹介します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
部屋の中で虫がみられる		ヒメマルカツオブシムシ (コウチュウ目)	幼虫は広食性で、毛織物やかťおぶし、煮干など、動物質の乾燥食品を好むが、玄米や小麦など乾燥植物質の食品も加害する。 成虫は年1回、5、6月頃に発生する。
家具に虫がみられる		ケブトヒラタキクイムシ (コウチュウ目)	広葉樹や竹の乾材害虫として知られるが、乾燥植物性食品等における発生例も多い。 関東以南に分布する。世界共通種である。
部屋の中で虫がみられる		カドコブホソヒラタムシ (コウチュウ目)	穀粉やカビの生えた貯穀類、畳などに発生することがある。本州、九州に分布する。世界共通種である。
家の中に大量に虫がはいってくる	 ①有翅虫、黒色、約2mm	① アリ類(ハチ目) ② アブラムシ類(カメムシ目) ③ コウチュウ類(コウチュウ目) ④ クロバネキノコバエ類(ハエ目)	個体数が最も多かったアリ類は、決まった時期に無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雌雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。 なお、虫咬症の原因となる昆虫類はみられなかった。
		⑤ ユスリカ類(ハエ目) ⑥ アザミウマ類(アザミウマ目)	

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
室内南側の窓際に小さな虫がみられる		寄生蜂の一種 (ハチ目)	寄生生活をするハチを一般的に寄生蜂という。農業上重要な天敵となっているものが多い。チョウ目、コウチュウ目、ハエ目、カメムシ目の卵や幼虫に寄生するものが多い。貯蔵食品害虫であるコクゾウやシバンムシの幼虫に寄生する種もある。ヒトを刺すことはない。
ガラス窓の近くにアリがみられる		ウメマツオオアリ (ハチ目)	樹上営巣性で、巣は立ち木の枯れ枝等にみられる。本州、四国、九州に分布する。
床下に茶色顆粒状のものがみられる		ニセコクマルハキバガ (チョウ目)	成虫の出現期は、初夏から初秋にかけて、北海道、本州にみられる。
ベランダに虫の卵のようなものが多数みられる		① カタバミ属(植物)の種子 ② カメムシ亜目(カメムシ目) ③ クモ目の一種	多年草の双子葉植物。果実は円柱状で先がとがり、成熟時には触れると、赤い種子が勢いよく弾き出る。最大1m程度までの周囲に飛ばすことができる。
浴室内で糞と思われる物質がみられた		不明	昆虫類やねずみ等の糞ではなかった。

成虫、黒色、約2mm

働き蟻、黒褐色、約4mm

幼虫、乳白色、約18mm

①種子、暗褐色、約1mm

乳白色～黒褐色

【 検査研究課 医動物担当 】